

読書利用のためのカフェ・喫茶店の可能性に関する研究

1230548 八谷美麗

指導教員 土屋 哲

研究背景

本を読まない大学生が多く、書籍費も減少しており、若者の活字離れが問題となっている。一方で、読書に魅力を感じていたり、必要だと考えていたりする人は多い。余暇時間の使い道としてカフェや喫茶店を利用している若者も多く、近年ではブックカフェも増えてきている。

研究目的

本研究では、若者へ読書を促進するために、その場や機会を提供するものとしてカフェや喫茶店の利用を想定する。その際、研究の着眼点として、“自宅や職場・学校とは別の心地よい第3の居場所”と定義される「サードプレイス」の概念を援用し、サードプレイスが提供する場や機会が、読書に求められる環境や条件の一部であるとの前提の下に、カフェや喫茶店を読書目的で利用する可能性について明らかにすることを目的とする。

研究方法

本学学生を対象に Google フォームを用いてアンケート調査を行った。過去、および現在の読書習慣と読書に対する考え、サードプレイスについてそれぞれ質問した。

分析結果

読書するのが月に1日以下だった学生は64%にもものぼった。大学生が本を読まない理由で最も多かったのは「時間が無い」というものだった。しかし、半数の学生は「今、読みたい本がある」と答えていることも明らかとなった。読書をしたくなる環境では、静かで人が少ない空間が好まれた。他にも音楽が流れている空間、座り心地の良いソファなどカフェや喫茶店のような場所も求められていることが分かった。サードプレイスを持っている学生は20.2%と少なかった。

考察・結論

音があり、人がいる空間（カフェや喫茶店のような雰囲気）を好む学生は全体の6.5%だった。サードプレイスは、1人で過ごせる場所として捉えている学生が多かった。サードプレイスがある学生の19人のうち、10人は1カ月に1冊以上本を読んでいたことから、サードプレイスを持っていると読書の環境が整う可能性があることが示唆された。しかし、サードプレイスが無い学生が多いため、まずはそのような場所を形成するにはどうしたらいいのかを検討する必要がある。